

各位

2026年2月26日



顕彰・研究助成対象者決定のお知らせ

2026年2月26日午前11時より、「古川医療福祉設備振興財団 第13回顕彰・第12回助成対象者」を決める選考委員会が開催され、下記のとおり決定いたしました。

■顕彰対象者（団体・個人）

1. 順天堂大学 保健医療学部理学療法学科 学科長・教授 高橋 哲也 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：1989年に理学療法士免許を取得、2001年に広島大学大学院医学系研究科博士課程保健学専攻を修了（博士・保健学）後、教育・研究に従事。2007年より兵庫医療大学教授、2018年に順天堂大学へ着任し、現在は同学科長として理学療法教育および研究を牽引している。

心臓リハビリテーション分野の研究を通じ、急性期から在宅まで一貫した心臓リハビリテーションの普及に寄与するとともに、入院関連機能障害（HAD）予防に関する制度設計において指導的役割を果たしてきた理学療法研究者であり、その功績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

2. 株式会社ココロミル 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：日本初となる完全使い捨てパッチ型の7日間連続計測ホルター心電計「エクラ」を自社開発し、2024年11月に上市した。販売開始後約1年で、複数の大学病院を含む全国約300施設の医療機関に導入され、臨床現場において急速に普及している点は特筆に値する。本製品は、完全使い捨てであることに加え、製造後2年間にわたり再充電を必要とせず使用可能という従来にない高い利便性を有している。この特長により、医療従事者の業務負担ならびに患者の受診・検査に伴う時間的・心理的負担を大幅に軽減している。

心電計検査の在り方に変革をもたらす可能性を有する医療機器であり、労働人口の減少が進む我が国の医療現場において、省力化と医療の質の両立に寄与する意義は大きい。その功績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

### 3. 聖路加国際大学名誉教授 井部 俊子 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：聖路加看護大学退職後も、患者に対する看護師の役割の重要性と看護の質向上を次世代に伝えるため、井部看護管理研究所を設立し、看護師育成に尽力してきた。看護の本質はケアにあり、ケアは尊厳の義務にもとづくとの視点に立ち、専門である看護管理の立場から、看護提供体制の整備に関する研究および先駆的実践活動に長年従事してきた。また、その理念と実践を看護職に広く伝える活動を継続し、日本における患者（およびその家族）中心の看護の在り方に大きな影響を与えてきた（講演 87 回：2017 年～2025 年 12 月）。さらに、医療福祉建築協会理事として医療福祉建築・設備分野にも積極的に関与してきた。  
これらの功績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

### 4. 横浜国立市民病院 様

顕彰分野：社会活動・建築設計

顕彰内容：横浜開港以来、未知の感染症に対峙してきた地域医療の特長を有し、医療者の知見を蓄積してきた。新病院計画時に発災した COVID-19 への初期対応は、その後の我が国の感染症対応のモデルとなった。全面移転開院後 5 年を経て得られた幅広い知見を継続的に社会へ公開し、今後の病院計画および運営に資する取り組みを行っている。  
神奈川県内唯一の第一種・第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症を想定した受入訓練を実施し、COVID-19 発災直後にはダイヤモンド・プリンセス号からの患者を受け入れ、2025 年 10 月までに累計 6,684 人の入院患者を治療した。施設面では、救急隣接の感染専用入口、感染症病棟への直通エレベーター、第一種・第二種全 26 床の個室化、明確なゾーニング設定を実現し、パンデミック時の拡張対応やスタッフ環境整備にも配慮するなど、感染症対策のモデルケースを示している。また、三ツ沢公園に隣接する立地を活かし景観と調和した空間構成を実現するとともに、周辺施設との連携を図りつつ、Jリーグ開催時の騒音・光害対策として全病室南向きの三列並列配置型病棟を採用した。さらに、高度急性期機能を重視した運営方針のもと、診療科横断型混合病棟方式や地域連携強化を通じて病床管理と経営改善に取り組んでいる。これらの取り組みと実績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

### 5. 社会医療法人誠光会 淡海医療センター 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：厳しい経営環境のなか、地域の基幹ケアミックス病院として位置づけられてきた草津総合病院は、地域医療ニーズの変化に対応しながら病院機能の再編を進め、経営改善を実現してきた。719 床を高度医療センター 420 床、ふれあい病院 199 床、介護医療院 100 床へと機能分化し、それぞれの役割に応じた運営体制へ転換している。従来は年間収入 110～130 億円規模でありながら毎年約 4 億円の赤字が続く状況にあったが、再度ファンドによる買収を経て経営再建に取り組み、体制の再構築を図った。さらに、

デジタル化を推進し、リアルタイムに戦略的指示が可能な「コマンドセンター」を設立するとともに、省エネルギー管理や看護必要量・スタッフ資質のスコア化による可視化を進め、入院患者へのスマートフォン貸与などを通じて運営効率の向上を実現している。これらの取り組みと実績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

#### 6. メディカル コンサルティング オフィス・JIN 代表 寺崎 仁 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：日本大学医学部医療管理学教室専任講師、横浜市立大学附属市民総合医療センター安全管理指導者（部長・准教授）、東京女子医科大学医学部教授を歴任し、医療安全管理分野において研究と実践を重ねてきた。医療事故防止を目的とした研究活動に加え、病院機能評価を通じて医療安全の基準および施設基準・指針づくりに関与し、講演や指導を通じて医療界、とりわけ医療安全分野の発展に大きく貢献してきた。また、公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会委員、公益財団法人日本医療機能評価機構サーベイヤ教育研修部会長として現在も活動を継続している。これらの功績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

#### 7. 一般社団法人日本医療福祉建築協会 会長

工学院大学 名誉教授 山下 哲郎 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：長年にわたり医療・福祉施設の建築計画研究を牽引してきた医療福祉建築の専門家であり、病棟計画、看護動線・患者動線の分析、災害時医療拠点の配置計画、過疎地域の医療環境など、多岐にわたる分野で研究を展開してきた。科学研究費補助金による多数の研究プロジェクトを主導し、超音波測位による看護動線計測や外来患者動線シミュレーションなど、医療現場の課題を建築計画の視点から可視化し、具体的な改善策を提示する研究は高く評価されている。現在は（一社）日本医療福祉建築協会会長として、医療福祉建築の発展および専門家ネットワークの強化に取り組み、医療施設の質向上と社会的課題の解決に向け幅広く活動を展開している。これらの功績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

#### 8. 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：1952年に大阪府立結核療養所羽曳野病院（320床）として開院し、1957年に1,000床へ増床、1976年に大阪府立羽曳野病院へ改称、2003年に大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターへ改組、2006年に独立行政法人化、2017年に現名称となり、2023年に現地建替えを実施した。建築計画においては、2階の正方形平面の外來部門の上部に4単位の病棟を2層で配置する合理的な構成を採用している。建替え時期がCOVID-19拡大期と重なったことから、感染症対策を設計に反映し、病室対応や病棟分割運用への柔軟な対応などを可能とする計画としている。これらの取り組みと実績は当財団

の顕彰規定に沿うものである。

9. 医療法人社団井口会 総合病院 落合病院 様

顕彰分野：社会活動

顕彰内容：真庭保健医療圏において、他法人とともに急性期医療を担うとともに、回復期・慢性期医療にも対応する中核病院である。開設から90年にわたり、地域を支える医療機関として地域密着型の医療活動を継続してきた。建築計画においては、2階建て構成とし、病棟を2階に井桁型に配置することで十分な外壁長を確保している。主動線を明確にし、分かりやすい部門配置とするなど、機能性と運営効率に配慮した計画となっている。病床規模は大きくないものの、健診、救急、リハビリテーション、産科、急性期医療から地域包括ケア、腎センター機能に至るまで、地域の医療ニーズに応える多機能体制を備えている。これらの取り組みと実績は当財団の顕彰規定に沿うものである。

■研究助成対象者

1. 名古屋大学大学院医学系研究科/高等研究院・特任助教 岡田 龍 様  
・がん治療と細菌叢制御を両立する次世代口腔内近赤外光デバイスの創出
2. 日本医療科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科  
理学療法学専攻 助教 姚 潤宏 様  
・高齢者のためのプロジェクション型ゲームリハビリシステムの開発と実証  
-運動継続意欲の向上と心理社会的ウェルビーイングへの効果の検討-
3. 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター  
臨床工学部門 臨床工学技士 木村 桃菜 様  
・カンボジアを対象とした医療機器オンライントレーニングシステムの検討
4. 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 助教 岡本 優美 様  
・新たな熱中症リスク評価システム開発に向けた環境・身体活動量・生理学データを統合した  
深部体温推定モデルの構築
5. 昭和医科大学 医学部生理学講座 生体制御学部門 助教 守屋 正道 様  
・慢性疼痛患者に対する脳・自律神経指標統合型セルフマネジメント支援システムの開発
6. 東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 建築学域 博士後期課程 小林 誠 様  
・子どもの社会的排除に対応する「支援施設」と複雑化・複合化した支援の関係性

7. 岐阜保健大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 辻本 健二 様

・経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）術後患者における早期歩行自立遅延リスク予測モデルと  
リハビリテーション最適化支援システムの開発

■ 顕彰・研究助成選考委員一覧

委員長	河口 豊	滋慶医療科学大学大学院 特任教授（工学博士）
委員	宇田 淳	滋慶医療科学大学大学院 教授 博士（工学）
委員	大垣 昌之	社会医療法人愛仁会 本部
委員	小松 正樹	アイテック(株) 特任顧問
委員	角 晴輝	元 竹中工務店 専門役
委員	田中 一夫	(株)病院システム 代表取締役会長
委員	早川 澄	元 酒井医療(株) 代表取締役社長
委員	松田 暉	医療法人嘉健会 思温病院 特別顧問
委員	山崎 敏	トシ・ヤマサキまちづくり総合研究所 代表取締役
委員	山下 修司	(株)山下 代表取締役社長
委員	山本 行俊	(株)システム環境研究所 取締役相談役
委員	吉田 靖	滋慶医療科学大学 医療科学部 臨床工学科 教授

■ 本件に関するお問い合わせ先

---

一般財団法人 古川医療福祉設備振興財団 事務局

〒565-0853 大阪府吹田市春日 3-20-8 TEL: 06-6369-0130